

おきやく、おことわり?

企画/鶴巻靖子 脚色/宮本敦 演出/奥洞昇 美術/永島梨枝子 音楽/一ノ瀬季生 制作/古賀恵子 出演/鶴巻靖子・茨木新平



大きなクマと小さなネズミの物語。

森の家に独りで暮らすクマは、毎朝同じ様に目を覚まし、同じ様に椅子に座り、同じ様にミルクティーを飲みます。ただただ静かに誰にも邪魔されることなく“キッチン”生活している事が何よりの幸せ。今日もミルクティーを淹れ、そのあまーい匂いに満足気です。

そこへミルクティーのあまーい匂いに誘われて、一匹のネズミがやって来ました。このネズミは何にでも興味津々、好奇心でいっぱい。

ネズミはクマの家の扉をノックします。が、大事なお茶の時間を邪魔されて、クマは強く追い返します。

「おきやく、おことわり！」それでもネズミはあきらめません。追い返されても追い返されても扉をノックし続けて、とうとうクマも根負けしてネズミにミルクティーを淹れるのですが…。

大きさも性格も“全く逆”の二人のおかしなお茶会が始まります。さてさて、どうなることやら…。

この人形劇は「おきやく、おことわり?」と「おとまり、おことわり?」の2冊の絵本から創作しました。

どちらも、クマのところへネズミが訪ねて来るお話です。絵本ではネズミが訪ねて来る事で、自身の生活リズムを崩され、慌てふためきながらも“新たな幸せ”を見つけるクマが描かれています。

では、そんな風にクマを導くネズミとは一体どんな“人間”なんだろう?そんな興味にかられ、人形劇ではネズミのドラマも膨らませました。クマに追い出されても追い出されても、決してあきらめないネズミ。その強さが少しずつ、クマの心を動かします。

自分をあきらめない強さと、相手をあきらめない強さ、それは人間をあきらめない強さです。

現代、人間関係が希薄だと感じる事は多々あります。相手は自分を受け入れてくれるだろうか?と怖れる気持ちが過度に働いてしまう。それは、子どもたちの友達関係の中にまでも見られます。あきらめずドアをノックし続ける小さなネズミと、心動かされる大きなクマ、二人だけの人形劇に“人間をあきらめない強さ”を込めて届けたいと思います。

演出/奥洞昇